

平成23年度第3回研修会報告 平成24年2月5日(日) 13:00~16:30

「思春期は何を目指すか! ~健やか親子の指標~

講師:山梨大学医学部教授 山縣 然太郎 先生

いわて思春期研究会でいつも話題になっている「思春期保健は何をめざすか! ~健やか親子の指標~」をテーマに山梨大学教授の山縣然太郎先生に講演いただきました。年度末のせい、参加者は26人と少なかつたのですが、目からうろこ状態の講演でしたし、その後のグループディスカッションでも先生からは、多くのアドバイスをいただきました。

山縣先生は、健やか親子21中間評価検討研究会座長・「健やか親子21」の評価等に関する検討会委員の役職をなさっている先生です。講演では、親子保健の課題(妊婦の喫煙・飲酒、産後うつ、心の健康、肥満・やせ、虐待など)、健やか親子について、健やか親子の中間評価について(十代の自殺率・人工妊娠中絶率・喫煙率・飲酒率、15歳女性の思春期やせ症、不健康やせなど)、エコチル調査などについて、わかりやすく講演していただき、今後思春期保健に携わる私達に大変、役立つ内容でした。

講演終了後2グループにわかれて、グループディスカッションを実施しました。フリーディスカッションでしたので、健やか親子の指標のこと、母子保健の評価指標のこと、他職種連携のこと、発達障害の子どものこと、精神保健活動における自殺対策のこと、性教育のことなど幅広い内容でのディスカッションになりました。

「健やか親子21」の公式ホームページを時々見ながら、思春期保健のめざすべきものを見失わないように、今後とも皆さんでディスカッションしていけたらと思います。(研修部:奥寺)

参加者の感想

講演はとても興味深く拝聴しました。計画の指標と個別の目標の考え方の違いを知ることができ、とても良かったです。頭が整理された有意義な時間でした。思春期に関わる私達が、一步一步悩みながら知恵を出し合っていくことが大切ですね。

グローバルな視点で新たな学びが多々あった。更に学びを深めたいと思うので、また講師にお願いできないのでしょうか。情報の共有化というのはなかなか難しいと思いますが、今後更に必要と思いますので、各その立場で発信する努力をしていきたいです。保健行政について、市町村格差が広がっているということについて、県として対応策を講じてほしいという思いを持ちました。(一県民としての要望でもあります。)

お知らせ

平成24年度 第2回研修会 を開催します

日時:平成24年12月16日(日)13:00~16:00

場所:岩手県民会館第2会議室(盛岡市内丸13番1号 TEL 019-624-1171)

内容:「いわて思春期研究会会員による、それぞれの活動紹介」

*それぞれが思春期の子ども達のために活動していることを研究会会員に紹介し、質問や討議することにより、今後の活動に生かすことをねらいとしています。

いわて思春期研究会ニュースレター

第4号

2012年11月27日発行

発行元:〒020-0193 岩手県滝沢村滝沢字菓子152-52 岩手県立大学看護学部「いわて思春期研究会」事務局
TEL 019-694-2280 (福島裕子) FAX 019-694-2281 e-mail yhukusim@iwate-pu.ac.jp

平成24年度いわて思春期研究会総会・特別講演会が開かれました

日時:平成24年6月24日(日)

12:30~12:55 総会

13:00~16:30 特別講演会

会場:エスポワールいわて 2階 大ホール

平成24年度総会

各部会から平成23年度の活動報告と、平成24年度の活動計画が提案されました。

以下に、各部からの報告・計画をご紹介します。



研修部

- 平成23年度活動報告 第1~3回研修会
各研修会のテーマ、講師、参加人数、感想抜粋が紹介された。
- 平成24年度活動計画 第1回研修会
平成24年6月24日(日)13:00~16:30
「思春期の性、男性の性~誰がいつどのように教えるか~」 講師 岩室紳也先生
第2回研修会も年内に予定

調査研究部

- 「岩手県の青少年の自尊感情と生活実態に関する調査」について
- 平成23年度
パイロット調査を実施。対象は内陸部の中学校及び高校各1校。調査についていくつかの課題が明らかになるとともに、興味深い結果も得られた。
- 平成24年度
全県調査は、震災の影響などで難しいが、一地域と共同しながらの調査実施を予定している。(検討中)

広報部

- 平成23年度
 - ・ニュースレター3号の発行
 - ・マスコミへの研修会の宣伝
- 平成24年度
 - ・ニュースレター発行
 - ・パンフレット作成

特別講演会

「思春期の性、男子の性

～誰がいつ、どのように教えるか～

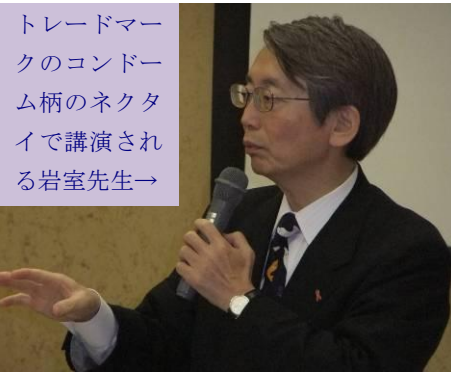
公益社団法人ヘルスプロモーション研究センター

センター長 岩室 紳也 先生

「 Condom の達人・男子の性の専門家」岩室紳也先生の講演会は、いわて思春期研究会の「特別」講演会として開かれました。

まずは「性教育は目的ではなく人と人との関係を取り戻す手段」と性教育の根本について考えさせられるお話。音楽も入った、分かりやすく楽しいパワーポイントを使って、参加者に「人と人とのつながり」「関係性」の大切さについて語りかけてくださいました。

その後のグループディスカッションでは、講演を聞いて感じたことや、先生に聴いてみたいことについて7～8人のグループでの話し合いを行いました。人との話し合いの中から、新たな発見、気づきを体感できる会となりました。



トレードマークの Condom 柄のネクタイで講演される岩室先生→



↑参加者 84 名が熱心に受講しました。



講演会後のグループディスカッションでは活発な話し合いが行われました。



参加者の感想より

HP を見ていた先生の講演がきけて勉強になった。高校生と接する中でストレスを取り除くことを考えていたが向き合っ てコントロールできる力を身に付けさせていかなければと思った。人と人との中で生きているんだと感じた講演だった。もっといろんなことをがんばりたい。

性の根底にあるのは、人と人との関係だと学んだ。また、男性の性の変化を初めて知った。ただ教えるだけではダメだと思った。

人と人とのつながり、関係性の問題が今の性に問題と課題と一緒にしていることについてショックだった。性=生(命)、性・生・人との関係性となっていること。震災後の地域づくりともリンクして考えさせられた。

友人関係も性も薬物も環境が大事と思った。人はそれぞれ育った環境が違うが居場所があったり、相談できる仲間がいたりするだけでその人の人生は変わっていくのだと思った。人と人とのつながりは大切だと思った。

P2

講演前日のフレカンファレンスの様子 H24. 6.23 於:「俺っち」

岩室先生との語り合い交流会 レポート 報告者:秋元先生

3.11 を機に岩室先生は毎月 1～2 回陸前高田を訪れて公衆衛生専門家として住民の健康な生活への支援を強力に行っていた。6.24 総会へのそもそもの願いは、なかなかうかがうことのできない「男子の性の専門家」としてのお話だったが、どうしても支援いただいていることのお礼とどのように行っているのか、どうしていけば良いかという、答えのなかなかでないであろう、しかし、是非関心ある人間たちがじっくりと話したいテーマでお話しをいただけないか、というわがままな二つ目の願いを快く(かえってこちらの方がプレッシャーだったとのことだが)お引き受けいただき、実現した交流会である。

貸し切った俺っち 2 階の壁に持ち込んだスクリーン代わりのシートにクーラーボックスで代用した台に乗せたプロジェクター、マイクなしという、よく言えば非常にぎっくばらんな雰囲気の中、

「 Condom がつないだ陸前高田 ～できていたことはできる?～」

と題して岩室先生のミニレクチャーが始まった。すばらしく効果的な BGM を挟みながら、あの未曾有の大災害のあと、何ができるかを模索し、最終的には「今までできていたことから、一つずつ、周りを見つつ、手をつなぎ」というやり方しかあり得ないということ。この大災害で**一番復興が必要なのは「一人一人の心」**であり、「地域の絆、コミュニティーなどの今まで積み上げられてきて、壊されてしまいつつあった**ヒトとヒトとの関係性**であることと明言された。そして、本当の意味での復興は、だれかが、ではなく、地域住民自身で継続する形での居場所作りであろうこと。それをサポートすることが支援する側の役割とお話しされた。最後に大人は子どもを、人は他人を変えることはできないけれど、**環境、関係性**次第で変わることができる、その**「場所を整える」**ことが我々の役割でしょうと結ばれた。

その後、俺っちの特製メニューを頂きながらの非常に活発なディスカッションが飲み放題終了まで行われ、話し足りないメンバーおよそ 20 名近くでカラオケボックスへ移動。なんと 1 曲も歌うことなく、3 時間を語り尽くした。それでもなお! という恐るべきメンバー数名は翌日の特別講演を控えてお休みになっていただかなくてはならないはずの岩室先生を引っ張り、盛岡名物冷麺を食し、ようやくお開きとなった。岩室先生をホテルにお送りした時間は午前 2 時であった。岩室先生の真摯で静かな、かつユーモアたっぷりの「岩室節」を身近に堪能でき、かつ、参加した皆が頭から離れない**「岩手の復興」**を真剣に、熱く、語らうことができた貴重な時間であった。

アキモトがつくづく感じたのは、「あれ」と「これ」は別ではない、ということ。すなわち、被災地の復興作りで最も大切なのは**「なぜ生きていくか」という尊厳を取り戻せるように**、ということであって、だからこそいくら交流の場をつくっても男性は集まるわけではなく、男に必要なのは「仕事と名刺」。子どもたちが前を向いて生きていけるようにするのに必要なことも「自分はこれでいいんだ」という思いを自分自身で感じることができるようになることであり、被災地支援での最重要点と何ら変わらない訳である。漠然とそのような感じだったが、岩室先生から明文化して頂き、自分自身の活動の方向性がはっきりした。

翌日午前中の会議を顔面蒼白で過ごす羽目になったがそれ以上の非常に大きな収穫であった。

(副会長・研修部:秋元)



↑顔面蒼白な翌日の秋元先生